国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

みごろの花&生きもの 散策コースマップ

2月中旬～3月中旬

みごろスタンプ
園内にミニスタンプがあるよ。さがしにいこう！

季節のおすすめ散策コース♪（ゆっくり歩いて1時間）
おてがるコース♪（ゆっくり歩いて30分）

いきもの

ニホンアカガエル(卵)(アカガエル科)
天敵の少ない冬に産卵するカエル。田んぼや水路の中に卵がないか探してみましょう。そして、オタマジャクシになって動く様子を観察しましょう。

ジョウビタキ(ヒタキ科)
橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。

ツグミ(ツグミ科)
夏になると鳴き声が聴こえなくなる（口をつぐむ）ことが名前の由来といわれていますが、実際は冬になると日本に飛んでくる冬鳥です。

切通し東側の草地（ティピの風景）

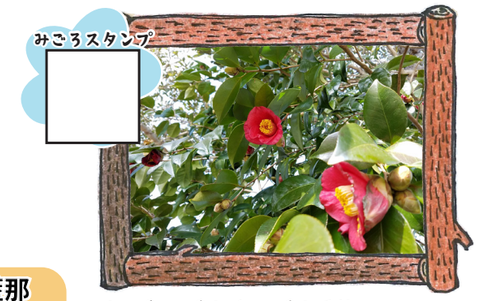
ヒガンバナ(葉)(ヒガンバナ科)
花は秋の彼岸の頃に咲きますが、葉は花が枯れた後、晩秋～春先までの間見られます。そして、翌年に花が咲く頃には葉はすでに枯れています。

ヨモギ(キク科)
早春から晩秋まで年中みられる野草。よもぎ団子にして食べたり、薬として飲んだり、お灸の材料にもつかわれます。

ツクシ(スギナ)(トクサ科)
ツクシの正体は、スギナなんです。胞子で増える、シダ植物の仲間です。ほろ苦いその味は「春の味覚」として食べる楽しみもあります。

フキ(新芽)(キク科)
いわゆる「フキノトウ」。早春の風物詩で、フキ味噌や天ぷらにして食べられます。

春の味覚



ヤブツバキ(ツバキ科)
ツバキには様々な種類がありますが、自生のツバキといえばヤブツバキのこと。メジロが蜜を吸いにやってくることもあります。

タネツケバナ(アブラナ科)
ナズナによく似ていますが、茎からのびる果実の部分の形が違います。晴れた日、はちはちと音を立てて、たねを飛ばします。

ナズナ(アブラナ科)
春の七草の一つ。茎からのびる果実の部分がかわいいハート型をしています。その形が三味線のバチにみえることから「ペンペン草」とも呼ばれます。

ウメ(バラ科)
うめ林にはさまざまな品種のウメが植えられています。紅花、白花、八重咲き、一重咲き。お気に入りの木を選んでみてください。

コハコベ(ナデシコ科)
春の七草のひとつ。畑雑草の代表的な存在。小さな白い花を探してみよう。

ホトケノザ(シソ科)
春の七草とよく間違えられますが、現在のホトケノザはこちら。葉の形が「仏の座」に見えることからこの名がつきました。

オオイヌノフグリ(オオバコ科)
ヨーロッパ原産の青い花。この花が咲くと一挙に春らしさに包まれる感じがします。

ヒメオドリコソウ(シソ科)
上のホトケノザとよく似ていて間違えられます。こちらはハート型の葉がたくさん重なってついています。よく観察してみてください♪